

コース名	東京テックイノベーションプログラム	コマ数	7	時間数	10.5
科目名	東京テック特別演習 3	教員名	田中靖浩、牧野千里		
概要	東京テックイノベーションプログラムでは、起業/新規事業を提案する際に有用と考えられる知識と技術について講義が行われる。特別演習 3 では、本プログラムの全科目を通して各履修者が得た知見を活かして、グループ議論を進め、顧客、投資家に魅力的なアイデアを効果的に伝えることを念頭に起業/新規事業案の提案を行う。				
目的・狙い	<ul style="list-style-type: none"> ・起業/新規事業をテーマにしたグループ学修による模擬起業準備経験を得る。 ・プレゼンテーションできるスキルを身につける。 ・前提知識も経験も技能も大きく異なる多様なグループメンバーと忌憚のない、真摯な議論を重ね、グループとしての成果を追求できるスキルを身につける。 				
履修条件 (履修数の 上限、要求 する前提知識等)	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の成果はグループディスカッションに大きく依存しているため、個人で作業する時間はもとより、グループ内で協議する時間を十分に確保できること。講義外活動時間の目安は講義時間の 2 倍以上を見込む。当該活動時間が学修効果に影響することに留意すること。 ・十分な時間が確保できない場合(困難と予測される場合)は、グループ員に説明後、担当教員まで連絡をすること(期間中にグループメンバーの変更も考慮する)。 ・PC を用いた資料作成、ウェブ会議システム上、あるいは LMS(manaba)上で遅延なくグループメンバーと協議したり、講義中にプレゼンテーションできる環境と技能を持っていること。 ・講義に関する情報は LMS(manaba)から入手できること。 				
到達目標	上位到達目標				
	・考案した起業/新事業提案内容をプレゼンテーションできる。				
	最低到達目標				
	・顧客、顧客が抱える問題/背景、それを解決する製商品・サービスの顧客に対する価値、ビジネスモデルなどの視点から、根拠に基づく起業/新事業提案内容をまとめることができる。				
授業実施形態 (単一または複数から構成される)	形態	○	留意点		
	対面型	○			
	ハイフレックス型(オンタイム)	○	2-7 コマ目:可能な限りリアルタイム参加が望ましいが、困難な場合は、オンデマンド配信にてキャッチアップし、別途、グループメンバーと議論を重ねること。		
	ハイフレックス型(録画併用)				
	録画視聴型				
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク(講義内、講義外ともに)はグループメンバーで調整を行い、積極的に行うこと。 ・履修前には各履修者に備わっていなかったコンピテンシーを獲得することを目指しているため、未習得の知識・技術を積極的に自学自修し、最終成果物を効果的に制作することが求められる。 				
授業の進め方(グループワーク方式など、進め方の特徴)	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は 7 コマにわたって開催される。 ・1 コマ目:科目説明、グループ編成公開(必要があれば変更)、検討事項説明、特別演習 3 にてグループ毎に提案すること、講義外学修に関する留意点を説明。3 コマ目までに各グループでリーンキャンパスを提示できるように準備することを説明。 ・2 コマ目:グループディスカッション。さらにレポート課題が提示されるので、期日までに各自提出。 ・3-4 コマ目:グループ員交換ディスカッション。各グループで作成されたリーンキャンパスを用いて、グループ間でディスカッションする。レポート課題が提示されるので、期日までに各自提出。 ・5-6 コマ目:プレ発表。なお、プレ発表プレゼン資料はプレ発表前日に提出すること。 ・7 コマ目:本発表。なお、本発表プレゼン資料は本発表前日に提出すること。 ・プレゼン時間は最大 15 分程度(グループ数により適宜増減する)。その後履修者、各教員からの質疑応答が行われる。 ・講義外学修時間を活用し、グループ員で相互に協力しながら、既存公開資料を調査、解析し、起業/新規事業内容を設計する。 ・起業/新規事業内容としては、ビジネス案のコンセプト(顧客及び顧客がもつ問題、解決方法、顧客価値、圧倒的な優位性、販路)、マネタイズ方法、収益/事業計画の設計の記述を推奨する。その際、根拠ある設計を行うこと。 ・グループを構成する履修者の経験、技量にあわせて、製品案(ソフトウェア・ハードウェア問わず)のプロトタイプ、プロトタイプのテスト結果、コンセプトムービーなども用意されていると、より望ましい。 ・発表者は複数でも代表者 1 名でもよい。プレゼン資料には履修者全員の氏名、貢献を盛り込むこと。 ・履修者が制作していない、他人の著作物は必ず引用のルールに則ってすべて引用すること。 				
授業の計画	回数	内容			授業実施形態

			[対]、[ハ(オ)]、[ハ(録)]、[録]
	第1回	科目説明、グループ編成公開(必要があれば変更)、検討事項説明、特別演習 3 にてグループ毎に提案すること、講義外学修に関する留意点を説明。3 コマ目までに各グループでリーンキャンパスを提示できるように準備することを説明。	ハ(オ)
	第2回	グループディスカッション。さらにレポート課題が提示されるので、期日までに各自提出。	ハ(オ)
	第3回	グループ員交換ディスカッション。各グループで作成されたリーンキャンパスを用いて、グループ間でディスカッションする。4 コマ目にレポート課題が提示されるので、期日までに各自提出すること。	ハ(オ)
	第4回		
	第5回	プレ発表。なお、プレ発表プレゼン資料はプレ発表前日に提出すること。	ハ(オ)
	第6回		
	第7回	本発表。なお、本発表プレゼン資料は本発表前日に提出すること。	ハ(オ)
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・2, 4 コマ目の課題レポート、プレゼン資料の提出、及びプレゼンテーションを必須とする。課題レポート、プレゼン資料の採点結果、プレゼンテーションの採点結果から個人単位で科目合格判定を行う。課題レポート、プレゼン資料が提出されない場合は、本科目の評価は行われず、自動的に不合格となる。なお、講義外学修活動の内容も考慮する場合がある。 		
教科書・教材	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて講師より提示する。 ・東京テックイノベーションプログラム各科目の講義を復修すること。 		
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて提示する。 		